

HAKUOH JHS NEWS

白鷗大学足利中学校新聞 —vol.97—



発行所／白鷗大学足利中学校新聞委員会 足利市伊勢南町4-3 TEL.0284-42-1131



2種目が終了し、得点表を確認すると計算間違いを疑うほど悲惨だった。○×クイズでは3問目の時点で2人しか残ってお

団結力のすごさ

荒井 廉貴

「優勝できるかな」と不安がよぎった。しかし組長である私の不安をよそに、クラスのみんなは失敗しても励まし合い、次の作戦を立てたりし互いに鼓舞し続けていた。この姿に私も感化され、どの競技にも全力でぶつかって「綱引き」「紙飛行機」などいくつかの競技で1位を獲得することができた。

そして、私たちは接戦をものにし、見事総合優勝を果たした。どんな時も前を見ていた3年2組は最高のクラスになったと思う。

体育祭スローガン

StayからStartへ!
目指すは優勝、深まれ友情
互いの距離は離れていても心は繋がっている

10月2日、今年も昨年度同様クラス対抗での体育祭が行われた。今年は緊急事態宣言の延長により、練習がほぼできない状態での開催となった。しかし、そんな状況下でありながら生徒一人ひとりが体育祭を楽しみ、クラスの団結を図ろうと一生懸命限られた時間で準備を進めた。今年は新たに紙飛行機を飛ばした距離を競う競技を追加した。今までとは違う、正にスローガンの名の通り、「StayからStartへ!」にふさわしい体育祭となった。

総合優勝! 3年2組

準優勝! 2年2組



マオリの命の息吹が宿る

橋本 慎之介

マオリの民族舞踊「ハカ」と共にスタートした我々2年2組。やはり今年の秋も熱かった。序盤のEX体操や○×クイズから優位にすすめる事ができ、波に乗った我々は止まらなかつた。いや、途中で失速した。しかし、声だけは出し続けた。練習ではうまくい

かなかった長縄もみんなで行えた。最後まで粘り強く戦った我々は全員、満身創痍の状態だった。そんな我々の目の前にオアシスが・・・「準優勝」。2年2組に巨大な命の息吹が宿った瞬間だ。準優勝の名とチームプレイ、努力の大切さを知った熱すぎる秋だった。

最高のクラスメイト

馬淵 斗碧

僕たち3年1組はみんな助け合い、全力で体育祭に挑みました。玉入れや長縄跳びでは良い成績を残していたものの、なかなか点数が伸びきらないまま、最も自信のあったリレー競技を迎えました。僕はリレーの途中、ゴール手前で転倒しケガをしてしまいました。その時、「恥ずかしい」よりも「悔しい」気持ちが入り込んできました。次の走者がバトンを受け取ってくれ競技は続いたものの結果は散々

第3位! 2年1組

松村 樹璃

僕たち、2年1組は全ての競技に全身全霊で取り組みました。体育の授業では一人ひとりが真剣に取り組む、放課後には長縄を練習したりと限られた時間をフルに活用しました。体育祭当日。クラスの

でした。しかし、クラスのみならず「大丈夫!大丈夫!」まだいける!など励ましてくれました。僕は皆の優しさに泣いてしまいました。結果は4位となりましたが、このクラスで良かったと心から思った一日となりました。



クラスが二つになった綱引き

山口 賢一

「山勘レース」「紙飛行機選手権」など、初めて行う白鷗中の体育祭の種目は面白いものばかり

皆の真剣な顔を見てとても心強くなりました。どの競技も練習の時以上にみんなが力を発揮し、一致団結することができました。そして結果は、なんと第3位。とても驚いたのと同時にこのクラスだから勝つことができるのだと心から実感しました。頼りない自分を支えてくれたクラスの皆に、感謝の気持ちでいっぱいです。こんなにも最高のクラスの組長になることができてよかったです。



でした。中でも最も盛り上がりを見せたのが「綱引き」です。スタートのピストルの音がなった瞬間でした。あちらこちらで沸き起こる歓声、両者一歩も引かない力のこもった戦い。見ていた僕はあつという間にその世界に引き込まれていきました。気がつくとも僕も少しでも力になればと「がんばれー!」と叫びを上げていました。しかしそれは僕だけでなく、綱引きメンバーではないクラスの皆も同じです。



楽しかった体育祭

長谷川 晃一

僕たち1年2組は、入学して初めての体育祭を『楽しく行うこと』を目標に取り組みしました。体育祭当日を楽しむためにも、授業の時間だけでなく、放課後もたくさん練習を積み重ね、先輩たちに負けないようにクラスの心を一つにして体



育祭に挑みました。競技では今までの練習を意識して取り組み、応援する場面ではクラスメイトの頑張る姿を全力で応援しました。しかし、残念ながら結果は最下位。先輩たちはすごく強く、団結力が違いました。結果は悔しかったものの、みんなと心を一つにすることや、競技の中での思い出がたくさんできたので目標は達成できたと思います。来年こそは優勝したいです。

林間学校

志賀高原(7月30日～8月1日)

いつもと違うけど大成功

3年 勅使河原 栞

今年は2年ぶりに林間学校へ行くことができた。初めて行く1、2年生に楽しんでもらうため、3年生中心にウォークラリー実行委員も張り切って準備していました。



3年生 バス旅行

大切な一日
3年 森田 綾乃

今年は2年ぶりに林間学校へ行くことができた。初めて行く1、2年生に楽しんでもらうため、3年生中心にウォークラリー実行委員も張り切って準備していました。



「今年は林間学校を実施します。」この言葉を聞いて僕は飛び跳ねるぐ

合唱祭開催

令和3年11月16日(火) 録画
令和3年11月17日(水) 鑑賞および
審査結果発表

【曲名】	1年1組「空も飛べるはず」	1年2組「ひまわりの約束」
	2年1組「宿命」	2年2組「打上花火」
	3年1組「なんでもないや」	3年2組「story」

【審査結果】

【最優秀賞】	3年1組
【優秀賞】	3年2組
【最優秀指揮者賞】	横田 百花
【最優秀伴奏者賞】	大塚 優里子

【講評】

今年度は、8月に緊急事態宣言が発令され、9月中は音楽の授業ができませんでした。10月から本格的に授業が再開されましたが、例年より1か月練習時間が短かったために、合唱曲が仕上がるか不安でした。しかし、生徒たちが一生懸命練習に取り組み、なんとか本番を迎えることができました。また、合唱祭の実施方法も変更し、2日間に渡っての開催でした。1日目は各クラスの合唱を録画し、2日目には収録したものを各クラスで鑑賞した後、表彰式を行いました。すべてのクラスにおいて、本番では今までで一番の素晴らしい演奏ができました。特に、3年生の合唱は最上級生として後輩たちのお手本となるものになりました。

小林 優

作文 最優秀賞

「知らないことは不幸を生む」

3年 鴫田 敦也

「君のひいおじいちゃん手風琴を押し入れに隠していたよ。」

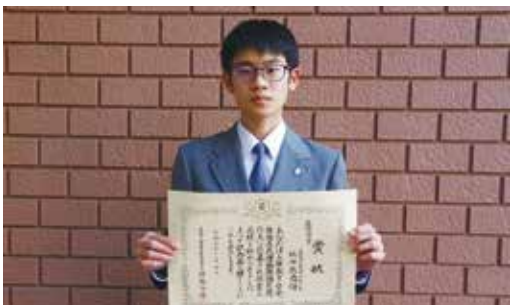
おじさんは僕の弟がピアノを弾く姿を観て、感慨深そうにそう話し出した。八十六歳になるおじさんは、今は亡き曾祖父の一番下の弟だ。手風琴とは小さいアコーディオンのことである。楽器を隠すのは何故なのか意味がわからない。不思議に思い理由を聞くと、「親が許さなかったからだ。あの時代は、男で、しかも長男が楽器を弾いているなんて、浮ついていると思われてしまったんだ。長男なら家業を継ぐのが当然だった。だから兄は大学進学も諦めたんだ。高校の先生には強く勧められていたんだけどね。」と教えてくれた。

僕はとても驚いた。楽器の演奏がいけないことなんて想像ができない。僕ら兄弟は男だが、小さな頃からピアノのレッスンを受けている。この事に何の違和感もない。でも僕らの二代目の男性は違ったのだ。今は、楽器演奏が出来た方がむしろ

凄くてかっこいいし、大学進学も普通のことだ。それを、曾祖父は許されなかったと知り、少なからず衝撃を受けた。八十年前の話である。今では当たり前の職業選択の自由、男女らしさというジェンダーに対する価値観も強制されていたのだ。これは曾祖父のことだけではない。他の家庭でも普通にあったことだろう。

自分の思ったことを自由に口にする、自分がしたいと思ったことをすること、自由に学ぶこと、自分の選んだ職業に就くこと、好きな服を着ること、好きな音楽を聴くこと、病気になること。これ医療を受けること。これ

らは全て、私たちが持っている「人権」だ。偏見や差別で持つべき人権が失われてしまうのは、絶対に許されない。人権が守られている僕はいい時代に生まれてきたと思う。



途上国の経済的・社会的に弱い立場にある生産者と経済的・社会的に強い立場にある先進国の消費者が、対等な立場で行う貿易である。もちろんフェアトレードにはメリットだけでなく、製品の価格や品質の安定が難しいというデメリットもある。それを含めしっかりと考えて、今、自分ができることをしていきたい。

僕は、一人ひとりが意識を変えることで、より良い社会を作っていけると思う。ここであえて強い言葉を使おう。

「知らないことは不幸を生む。」

僕はそう思う。少しでもいいのでまずは現状を知り、目を反らさず家族や友人と話し合い、そして問題について考える努力をするべきだと思う。それが人権問題解決の第一歩になると僕は信じている。

白鷗大学足利中学校入学試験のご案内

第2回 一般入試	試験日	願書受付期間
	令和4年 1月29日(土)	令和4年 1月24日(月)～ 1月26日(水)

TEL.0284-42-1131 詳しくは 白鷗大学足利中学校 検索